

ゴミ軽トラック2台分

清流古座川 川下りで清掃 取り戻す会



舟で川を下りながら拾った、ゴミを途中で降ろす会員
(古座川町大川で)

古座川町の「清流古座川」を取り戻す会(坂根弘農会長)は13日、舟で古座川を下りながら清掃し、軽トラック2台分のごみを拾い集めた。川の濁り状況も確認した。同会専門委員の梅本信也さん(47)＝京都大学フィールド科学教育研究センター＝紀伊大島実験所所長＝らは、濁りの深刻さを実感していた。

取り戻す会は、古座川をかつての清流の姿に戻そうと2004年9月、町内の漁協や観光協会、区長会らで発足。「川の

濁りの長期化は、七川ダム
の放流に原因がある」と主張し、運用管理の改善を求めるなどの活動をしている。

川下りでの清掃は、濁りだけでなく、河原をきれいにするのが目的。古座川商工青年観光事業組合が観光火振り漁で使っている全長約8キロの舟を借り、会員ら5人が古座川町真砂で乗り込み出発。さおで操りながら下り、川辺の草むらに引っ掛かったごみを拾い集め、途中4カ所でごみを降ろした。同町相瀬の「一枚岩」まで約10キロを約4時間かけて下った。ごみは家電やタイヤなど不法投棄とみられるごみが目立った。キャンプで捨てられたとみられる空き缶やビニールもあった。

濁りの深刻さも実感

濁りは舟の上から見て確認した。梅本さんによると、出発点の真砂付近は濁りがひどく、佐本川など支流の水が流れ込む地点は水温が下がり、濁りが少なくなる。真砂では水質が悪い河口付近に多い草が確認でき、アユ

の餌になる藻類が少ないことも分かった。梅本さんは「川の水の流れが悪い地点の濁りはひどい。川面の高さで見ると、より一層深刻さが分かった」と話した。今後、草を採取し、実態調査を進めたいという。